

抑留中の労苦記録

山梨県 三浦 喜美雄

(一) 出生から入隊まで

- ①どこで出生……山梨県南都留郡足和田村長浜
- ②いつ出生……大正七(一九一八)年二月二十日
- ③学校……西浜尋常高等小学校卒業

(二) ソ連軍侵攻前

- ①いつ入隊……昭和十三(一九三八)年十二月十日
現役 戦車二連隊
 - ②入隊場所……千葉県習志野
 - ③駐屯地……戦車二連隊より主計兵に転属、関東軍
経理部 奉天(瀋陽)市
- (三) ソ連軍侵攻をどこで受けた

- ①いつ……昭和二十年八月
- ②どこで……奉天市
- ③どんな状況で……奉天市勤務中捕虜となる。

(四) 終戦

- ①詔勅……混成捕虜隊長より伝達される。
- ②感想……終戦は信じられなかった。単なる流言と
思った。
- ③どう終戦したか……再三の隊長の説明により終戦
を信じた。
- ④武装解除から収容所入まで……昭和二十年八月二十
十日頃武装解除された。

(五) シベリア抑留地への移送

- ①いつ頃……昭和二十年十一月黒河よりブラゴエ
チェンスクに渡り貨車に乗せられた。
 - ②どここの地点からどこへ送られた……ブラゴシチェ
ンスクよりカルドン収容所。
何日くらい……約一週間くらい
 - ③第一次入ソ場所……カルドン収容所
いつ……昭和二十年十一月二十日ごろ
- (六) 抑留地の生活
- ①第一次収容所どこ……カルドン

収容人員……二百人

②生活の様子

住まい……バラックの粗末な住まい

食事……黒パン三〇〇gと高粱^{ポリヤン}若干

仕事……伐採

ノルマ……五〇〇gのパン相当のもの

衣服……古軍服とシューパー、カートンキー

入浴……ほとんどない シラミ……多数

南京虫等……なし 伝染病……なし

③作業の状況

主作業……伐採、橋運搬

ノルマ達成状況……中ぐらい、五〇%

単位……個人、五〇%

中隊または収容所……すべて伐採、運搬作業

グループ……二人一組、二人引き鋸

④給与……ノルマ五〇%は黒パン五〇〇g、高粱若干

干

(七) 労役

①どういう労役についたか……昭和二十三年カルド

ン収容所より移動、昭和二十三年―二十四年間、炊事勤務。

②収容人員……イルクーツク第六収容所(チェレン

ホーボ) 六百人

宿舍……一応整っていた。患者室、一般室、入浴

場、滅菌室、娯楽室。

③冬最低温度

冬はどうして生活したか……暖房装置としてペー

チカがあった。

労役が一つに止まらないときはどうしたか……炊

事勤務のみ

④労役の時間……二十四時間

内容……炊事ナチャーニック

⑤労役に堪えられない者はどうされたか……医師の

診断により患者扱いとなった。

⑥健康管理は……各自体力に応じた体操等をやっていた。

いた。

⑦常日頃健康を保つ上で役に立つことは……集団競

技、体操等をやった。

⑧衣服について扱われたことは……衣類は時々交換され、洗濯、滅菌等が施された。

(八) 抑留者の統制管理

①労役につく基準……能力、体力に応じ何組かに分かれた。

②労役免除……医師の診断により決定された。

③健康管理……各人の能力、体力に応じた処置していた。

④点呼・作業場への出入……必ず五列縦隊に並び数えられたが、数え方は遅かった。

⑤着衣・衣服……十分な物ではないが、一応着られたと思う。

⑥食事の状況……充分ではなく、いつも同じで、仕方なく思っただけ食べていた。

⑦休日……一週間に一日くらいだったと記憶している。

⑧収容所施設、構造……一応整った二段式ベッドで、ベーチカ等備えてあり、暖を取れた。

⑨洗脳教育……アクチーブの教育、『日本新聞』等

発行され、共産教育を受けた。

⑩収容所生活全般……毎日過酷な労働であり、一度でよいから米の飯と饅頭が食べたかった。

⑪懲罰……炊事場が汚れていたと言われ営倉に二回入れられ、十時間くらい何も食べなかった。

(九) 抑留中の生活と極限状態

①乗りこえてきた信念……一人息子で、老父母に孝養を尽くし三浦家を継ぐ責任を感じ、意地でも生還を期すべく毎日を送っていた。

②心身を支えた工夫……食事と体操で心身を鍛えることを考えていた。

(十) 帰還

①ダモイをいつ、どこで聞いたか……昭和二十四年六月、第六収容所担当将校より聞いた。

②集結地……ナホトカ

③乗船名……信濃丸

④船内生活……日本人乗員を見た時、今度こそ日本に帰れると想い、体に気をつけて、帰ったらまず何をすべきか考えていた。

⑤ 上陸地……舞鶴港

⑥ 収容期間……四年間

(十一) 帰国後の生活

昭和二十四年七月帰国。村民の厚意と要望により

昭和二十四年十二月役場職員に採用され、地方公

務員となった。

抑留中の労苦記録

山梨県 渡辺 時雄

(一) 出生から入隊まで

① どこで出生……山梨県南都留郡忍野村忍草

② いつ出生……大正七(一九一八)年三月十日

③ 学校……陸軍士官学校(予科)

(二) ソ連軍侵攻前

① いつ入隊……昭和十三(一九三八)年一月十日

現役志願兵

② 入隊場所……陸軍重砲兵学校 神奈川県横須賀市

③ 駐屯地……満州国滨江省阿城

戦地……南方フィリピン、満州国図們

(三) ソ連軍侵攻をどこで受けた

① いつ……昭和二十年八月十日夜中

② どこで……満州国東寧県図們とソ連国境陣地(要塞)。

ソ連軍が戦車で突然攻撃してきた。

③ どんな状況で……私ども九六式一五〇重砲隊は要塞陣地の山頂中心部にあったので、戦車は攻撃しないうで通過した。

(四) 終戦

① 詔勅……昭和二十年八月十五日正午、自隊の九六式超音波無線機で傍受した。

② 感想……まさか敗戦とは、自決しようと思った。

③ どう終戦したか……詔勅に従わず決戦と決めたが、軍司令部高官の使いでやめた。

④ 武装解除から収容所入まで……八月二十日朝、陣地を破壊し、自動貨車に分乗し一個中隊揃って一泊二日行軍し、延吉市(間島)の野戦兵器廠(収容所)に入り武装解除、収容された。